第３学年１組　国語科学習指導案

[redacted]

１　単元　　論の共通点を読み取り，より効果的な述べ方を探る
　　～『人工知能との未来』『人間と人工知能と創造性』（光村図書３年）～

２　指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは，第二学年で学習した『君は「最後の晩餐」を知っているか』『最後の晩餐の新しさ』において，対象の魅力を伝えるための効果的な述べ方を比較しながら検討する活動を経験している。そこでは，筆者の強い思いのこもった表現や，比較対象を取り上げながら魅力を語る述べ方に着目し，より効果的で適切な表現を捉えたり問い直したりする中で，言葉への自覚を高めてきた。このような子どもが，二つの文章を読み比べながら論の共通点を捉えた上で，効果的な述べ方について検討できれば，筆者の工夫した表現の意図やよさを感じ，さらに言葉への自覚を高めていけるだろう。

そこで，単元を構想するにあたっては，次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は，現代を生きる私たちにとって至るところで欠かせない存在となっている人工知能について，人間が今後どのように付き合っていくべきかを，筆者がそれぞれの立場から述べている二つの論説文で構成される。ここでは，二つの論に共通して根底にある，「人工知能と付き合う中で人間が大切にすべきこと」についておさえた上で，異なる視点や，特徴的な述べ方を比較する。その中で，知識や語感を頼りに信頼性や客観性，説得力があるか否かを吟味しながら，より効果的な表現を捉えていけるようにしたい。

そこで，指導にあたっては，次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

○　第一次では，二つの文章を読み，論の共通点を捉えた上で説得力についての感想を共有する場を設定することで，述べ方の工夫に着目できるようにする。

○　第二次では，「説得力が高いのはどちらの筆者か」という課題を検討する場を設定することで，筆者の主張と論理の展開とを結び付けながら，効果的な表現を捉えたり，問い直したりすることができるようにする。

○　第三次では，理解したことや考えたことを，批評文にまとめる活動を設定することで，二つの文章を通して読み深めた，より効果的な表現を自覚することができるようにする。

３　目標

⑴　話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。　〔知〕⑴ウ

⑵　文章の構成や論理の展開，表現の仕方について評価することができる。〔思〕Ｃ⑴ウ

⑶　文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて，自分の意見をもつことができる。　〔思〕Ｃ⑴エ

⑷　言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を通して自己を向上させ，我が国の言語文化に関わり，思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力，人間性等」

４　well-beingにつながる学びについて

本学園では，well-being を「個人だけでなく，社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-being の実現には，教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を，人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには，エージェンシー（変化を起こすために，自分で目標を設定し,振り返り，責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考える。

本学園の国語部では，述べ方の効果や読後感の要因等を捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めていく子どもを育成する授業が，教科の本質に迫る授業だと捉えている。また，エージェンシーを発揮している姿を，言葉による見方・考え方を働かせている学びの過程を自覚する姿だと捉えている。本単元においては，「説明的文章を読み深めるために大切にしたい観点」を既習内容に基づいて設定し，その観点に対する自己評価と本時の課題に対する自分の考えを蓄積していく場を設ける。そうすることで，読者の立場と筆者の意図とを往還しながら，言葉にこだわろうとする様相が見られることを期待する。

このような学習を経験した子どもは，蓄積してきた自身の言葉への捉えを，これからの言語活動に活かそうとするようになり，well-being の実現につながるだろう。

５　指導と評価の計画（総時数　６時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	評価規準・評価方法等
○ ①	○　説明的文章を読み深めるために大切にしたい観点を設定する ・既習内容の想起，確認	○　観点を共有・決定させることで，既習内容を生かして作品を読む意識がもてるようにする	［主体的に学習に取り組む態度］ 観察 ・既習内容から，考えを提案しようとしているかの確認
一 ②	○　本文を通読し，初読の感想をもつ ・内容理解，構成把握 ○　要点を整理し，二つの文章の主張と共通点を捉える ・説得力の高さと述べ方の工夫への着目	○　観点に対する意識をもたせながら作品を読ませることで，課題への自分の考えをもてるようにする	［主体的に学習に取り組む態度］ ワークシート・観察 ・工夫された述べ方を見付けようとし，それを伝え合おうとしているかの確認 ［知識・技能］ ワークシート・観察 ・話や文章の種類とその特徴について理解しているかの確認
二 ② 本 時 ２ ／ ２	○　「序論と本論との結び付きに説得力があるのはどちらの筆者か」について検討する ・文章の構成 ・論理の展開 ●　「人間と人工知能との関わりの述べ方に説得力があるのはどちらの筆者か」について検討する ・論理の展開 ・表現の仕方	○　振り返りシートを用いて，毎時間の授業の最後に自己評価と考えを蓄積させることで，変容を自覚できるようにする ○　振り返りシートからみとれる変容を価値づけることで，形成した考えをその後の学習につなげられるようにする	［思考・判断・表現］ Google Jamboard・振り返りシート ・文章の構成や論理の展開，表現の仕方について評価することができているかの確認 ［思考・判断・表現］ 教科書・Google Jamboard ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて，自分の意見をもつことができているかの確認
三 ①	○　二次で理解したことや考えたことを基に，「説得力があるのはどちらの筆者か」について批評文を書く ・根拠となる言葉や文の選択	○　単元を通してつなげてきた学びを見返しながら活動させることで，目標を設定して学習することのよさや，必要性を感じられるようにする	［主体的に学習に取り組む態度］ ノート ・今までの学習を生かして，粘り強く述べ方の工夫を見付け，その根拠・理由をまとめようとしているかの確認

６　本時案　―第二次・２時分―

⑴　主眼　　「人間に必要なことの述べ方に説得力があるのはどちらの筆者か」という判断型学習課題を検討することを通して，「人間」に対する筆者の見方や，利点と欠点の述べ方の工夫に気付き，自分の考えを形成することができる。

⑵　準備　　スクリーン，タブレット端末，振り返りシート

⑶　学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1　筆者の主張と，それを支える中心的な部分を確認する 人間と人工知能との関わりについて何と述べているか ・本時の学習への見通し	ア　羽生さんは，人工知能も人間も互いから学ぶことが必要だと述べ，そうすることが「より建設的」と言っている イ　松原さんは，「共同するのがよい」と言い切って，人間が判断力を養うことが大切だと述べている ウ　「共存」という点では根底にあるものは同じだけれど，述べ方も主張へのつなげ方も違って，松原さんのほうが強く感じる	・　ポイントとなる部分を並べて板書することで，比べる内容を明確にしたり，表現の特徴や違いに着目したりしながら検討できるようにする	5
2　判断型学習課題を用いて，より効果的な表現を検討する 説得力があるのはどちらの筆者か ・論理の展開 ・事例の述べ方	ア　羽生さんは，「道もあるでしょう」「道もあるはずです」と述べていて，よりよくしていこうという思いが感じられ，「建設的」とつながる イ　しかも，「うまく活用すれば」と，人工知能との共存の前提をしっかり教えてくれていて，読者に寄り添ってくれている感じがする ウ　それなら松原さんも，「高くなるはずである」「できるかもしれない」という述べ方で，「得意が異なる」部分をしっかり説明している エ　「人間はすごい」という姿勢で述べているのも，読者は納得しながら読み進めることができる要素だ オ　でも，松原さんが文末を曖昧にして述べているのは，人工知能の具体的な使い方に踏み込んでいる部分だから，「よい」と言い切っているなら，正確なデータなどがほしいと思う	・　Google Jamboardを用いて判断型学習課題に対する考えを可視化することでそれぞれの立場や，その根拠となる部分を確認し合いながら検討が進められるようにする ・　相反する意見や似ている意見を意図的に取り上げることで，自分の意見を述べたり，他者の意見を聞いたり，さらに考えを広げたりする意欲を高められるようにする ・　文章を比較しながら，筆者の書きぶりの工夫に着目して意見を述べる子どもを価値づけることで，言語内容ではなく言語形式を根拠に語ることの重要性を感じられるようにする	45
3　本時の学習を振り返る 本時の課題に対する自分の考えを最も支える表現はどこで，その理由は何か ・考えの形成 ・考えの言語化	ア　人間とコンピュータのことを順序よく述べている松原さんのよさがわかって，説得力につながっていると思えた イ　文末表現が同じだと思っていたけれど，確かに触れている内容が違うと気付けて，内容理解がＡ+になった	・　振り返りシートに，自己評価と課題に対する考えを蓄積させることで，前時からの変容や，単元を通して獲得した新たな読みの視点を自覚できるようにする	50

⑷　評価規準と方法

論の中心となる部分のより効果的な述べ方を捉えたり，問い直したりしながら，「人間」に対する筆者の見方や，利点と欠点の述べ方の工夫に気付き，判断型学習課題に対する自分の考えを形成することができたか，発言や振り返りシートの記述からみとる。

＜メモ＞